

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	福永家住宅・塩田保存活用事業		担当部署	教育委員会 生涯学習人權課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	文化財保護法		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり	事業期間	開始	昭和	51年度
政策(中項目)	2	伝えたい 魅力あふれるまち なんと			終期	未定
(小項目)		文化財				
施策	4	文化財の保護と活用				
基本事業	2	文化財の保護と活用				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 国指定重要文化財「福永家住宅」						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	全国で唯一、近代化以前の製塩業の姿を残す「福永家住宅」について、必要な保存対策・環境整備を進めながら、公有化した建物・塩田の公開活用を行う。これにより、文化財を地域学習の材料としてだけでなく、地域活動及び観光資源として活用することを目指す。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	①保存活用計画(案)の内容調整について文化庁と協議を進め、文化庁の承認により策定された計画に基づき、国庫補助事業による建物修理などについて検討する。 ②地域住民やボランティアと協働し、一般公開事業を実施する。 ③事前申込による個別の見学依頼について、観光ボランティアガイドと協働して実施する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		福永家住宅の保存整備割合	90	90	90	90	90	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①保存活用計画(案)の内容調整について文化庁と協議を進めた。 ②地域住民やボランティアと協働し、年2回の一般公開事業を実施した。 ③事前申込による個別の見学について、観光ボランティアガイドと協働して実施した。					
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 福永家住宅の公開	14	19	20	20	20	件
	2 福永家住宅の市有化率	95	95	100	100	100	%
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	福永家住宅の保存整備割合	80	80	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)	88.9		—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	1,507	1,507
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	1,507	1,507
		決算額	0	0	0	0	1,201	1,201
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.5	0.0		3,617		4,818	

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	5,125	1,201	1,463	1,463	1,463
	うち一般財源	3,247	1,201	1,463	1,463	1,463
	人件費	3,567	3,617	3,617	3,617	3,617
	総事業費	8,692	4,818	5,080	5,080	5,080

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		公開事業などを通して、市民に鳴門の塩づくりの歴史を伝え、郷土愛を醸成する効果があった。
	効率性	B:概ね効率的だった		公開行事にあたっては、地元団体や観光ボランティアガイドとの役割分担による運営が行えた。
②成果に対する評価	指標名	福永家住宅の保存整備割合		必要な施設の維持管理を行いながら、文化財の公開事業も試験的に実施することができた。また、保存活用計画(案)の策定に向け文化庁との内容調整を進めたが、承認を受けて策定するまでに至らなかった。
	目標	90	%	
	実績	80	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		公開活用については予定通り実施できたが、今後、適切に文化財の保存と活用を進めていくために必要となる保存活用計画の策定を終えることができなかった。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	保存活用計画(案)については、文化庁による承認を受けて最終策定となることから、30年度中に文化庁・徳島県教育委員会との協議により、内容の最終調整を行い、承認を得られるように進める。また計画策定後は、計画内容に基づいた事業を進めていく。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	①保存活用計画の策定および建物の保存修理に向けた調整 ②地域住民やボランティア団体などと協働した公開事業の実施 ③緊急性の高い修繕事業の実施 ④指定地内に残る私有地について、公有化の交渉を継続する。			
	H31年度	①保存活用計画に基づいた保存修理事業の検討 ②地域住民やボランティア団体などと協働した公開事業の実施 ③緊急性の高い修繕事業の実施			